



日本社会心理学会方法論セミナー  
2023年3月13日（月）14:00-17:30

APAマニュアルにみる質的研究の評価の視点と  
研究の最前線  
ディスコースの分析アプローチ

淑徳大学 総合福祉学部 実践心理学科  
大橋 靖史

1

## アウトライン

1. ディスコース心理学
  1. ディスコースとは
  2. ディスコースに着目した分析の実際
2. ディスコース分析の進め方
  1. リサーチ・クエスチョン
  2. 研究方法と分析
  3. 論文を書き上げる
3. APA質的評価基準に沿って
  1. 序論
  2. 方法
  3. 知見・結果、議論
4. これからのディスコース分析

2

# 1. ディスコース心理学

- イギリスの社会心理学者らが中心
- 社会的相互作用と言語に注目
- 反 = 本質主義的な視点
- 内的なこころの状態や認知（記憶、情動、帰属、態度、信念、ストレス、学習障害など）の存在や特質について、一旦カッコに入れる
- 存在論的な問いに対し答えず、人々が「事実」をいかに描写し、構築するかに関心を持つ
- 人々相互による言語の使い方（ディスコース）に着目する

3

## 1-1 ディスコースとは

- 特定の仕方で1つの対象を構築する、組織的で一貫した一群のイメージ、メタファー
- 人々の間で実際に話されるやり取り
- ディスコース分析は、
  - テキスト内部ではたらくディスコースを明らかにするための分析
  - テキスト構築で用いられる言語的および修辭的（レトリカル）装置を明らかにする分析

4

## 1-2 ディスコースに着目した分析の実際

- ここでは、こころの内的状態を示すと思われる「記憶」や「嘘」といった現象が、人々のやり取りの間でどのように立ち現れているかに注目
- 実際のやり取りを見た上で、分析を試みる
- 探索的な分析アプローチ
- 分析資料に立ち戻りながら、分析を繰り返していく
- 比較し得るケース、逸脱したケースへの注目

5

## 2. ディスコース分析の進め方

- “Doing Conversation, Discourse and Document Analysis”
- 著者：Tim Rapley（イギリス・ニューカッスル大学の若手研究者）
- 言語使用に関する広範な分析方法の紹介
  - 会話分析
  - ディスコース分析
  - ドキュメント分析
- 特定の立場や理論に偏ることなく、また、幅広い材料を分析の資源として用いた研究 cf. 理論と分析の関係（Burr, V. 2015 “Social Constructionism” Third Edition, Routledge）
- **実際に研究者が研究を行う、知見を生成する流れに沿って** cf.成果としての研究論文

6

## 2-1 リサーチ・クエスチョン

- 最初にリサーチ・クエスチョンを立てる
  - リサーチ・クエスチョンは**確定しているものではない**
  - 2-2の作業によってリサーチ・クエスチョンは**変化する**
- 研究目的や研究の理論的根拠も**確定的なものではない**
  - したがって、研究デザインや探究アプローチも最初は**暫定的である**
  - 2-2の作業、場合によっては、2-3の作業を経て**変化する**

7

## 2-2 研究方法と分析

- コード化を行う
- 分析を行う
  - 分析資料に**立ち戻り**ながら
  - 反省をしながら、これらのプロセスを**繰り返す**
  - 分析は**暫定的**なものである
  - 全ての資料を詳細に分析できるわけではない
- チェックする
  - 妥当性を検証する
  - 逸脱したケースの分析
  - 先行研究との比較
  - 他者にデータを見せ、得られた知見について討議する

8

## 2-3 論文を書き上げる

- 論文にしていく作業
  - 自身の分析を**反省的**に捉える
  - 論文を書くという実践を**反省的**に捉える
- 読み手が研究プロセスと知見にアクセスできるようにする
  - 分析の基礎となる材料の実例にアクセスできるようにする
  - すなわち、具体的なプロトコル等を提示する
- **いずれも、研究を行う側から見た研究のやり方**

9

## 3. APA質的評価基準に沿って

- この評価基準は、特に**査読者を含めた読み手**を意識した基準
- 一方、前述した「2. ディスコース分析の進め方」は**実際に研究を行う人**を意識した記述
  - 量的研究では、両者の間の違いは小さい？
  - 量的研究では、いずれも線形的・因果的な研究の流れ
  - a truthやa stable realityが前提となっている
  - 質的研究では、両者は必ずしも一致しない
  - truthsであり、realitiesと考えることもできる
  - （論文それ自体も含め）いかにrealityが構築されていくか cf.ディスコース研究

※ **書き手の立場からも書かれているが、それはデータ収集し分析する時点というよりも、むしろ、それを論文として書き上げる時点の注意点**

※「論文として書き上げる」という行為は、言語使用の問題であり、いかに読者に対し説得的に研究を描写するかという、ヴァージョンの問題として捉えることができる

10

## 3-1 序論 (2-1と比べ、線形的、確定的 量的研究を意識?)

- 研究課題・設問
  - 問題／問いとその文脈について枠付けよ
  - 先行研究について批判的に検討せよ。限界、知識の隙間、実践的なニーズを明らかにする関連文献における重要課題、議論、理論的枠組みを特定せよ
- 研究目的・ねらい
  - 研究目的、目標、狙いについて述べよ
  - 場合によっては、ターゲットとする読者（聴取者）について述べよ
  - 研究デザインと研究目的／目標が整合的であることについて提示せよ（理論構築、説明、得られつつある理解、社会的行為、記述、社会実践など）
  - 研究目撃や研究の論拠（理論的根拠）を説明する場合、探求アプローチを記述せよ（記述的、解釈的、フェミニズム、精神分析的、ポスト実証主義的、構築主義的、批判的、ポストモダン、プラグマティックの各アプローチなど）

11

## 3-2 方法 (こちらも、2-2と比べ、線形的、確定的)

- 研究デザインの概観
  - 研究デザイン（データ収集方略、データ分析方略など）、探求アプローチ（記述的、解釈的、フェミニズム、精神分析的、ポスト実証主義的、構築主義的、批判的、ポストモダン、プラグマティックの各アプローチなど）について要約せよ
  - 選択して研究デザインについての論拠を提示せよ
- 研究対象者・データソース
  - 研究者についての記述（研究しようとする現象の理解が、研究に与えた影響など）
  - 対象者あるいは他の（既存の）データソース
  - 研究者－対象者の関係（研究プロセスとそれに対する影響と関係する両者の関係や相互作用など）

12

## 3-2 方法（続き）

（量的研究では、再実験、再分析  
質的研究では、検証可能性の担保？）

- 研究対象者の募集
  - 募集方法（募集プロセスの明記）
  - 対象者の選定（そのプロセスについて明記）
- データ収集
  - データ収集・確認手続き（収集の形式、収集方略とその変化、関与の程度、主要な質問）
  - 記録とデータの形成（データの記録形式、フィールドノーツ、逐語録作成プロセス）
- データ分析
  - データ分析方略（研究目的との関連性、透明性を備えた手続き、コーディング、分析単位、分析スキームなど）
  - 方法論的公正さ（忠実性、有用性、分析プロセスの一貫性、補足チェックなど）

13

## 3-3 知見・結果、議論

（結果と考察とは切り離せない  
場合が多い、reflectiveであるのは研究を行う側の視点？）

- 知見・結果
  - 研究成果（テーマ、カテゴリ、ナラティブなど）、研究者がデータ分析から引き出した意味や理解について記述せよ
  - 調査結果の分析プロセスについて論証せよ（引用やデータ抜粋など）
  - 研究デザインと矛盾しない方法で研究成果を提示せよ
  - 知見の組織化・伝達において有効な場合、総合的な説明の提示せよ（図、表、モデルなど）。写真やビデオへのリンクも使用可能
  - 先行の理論や研究結果との類似点や相違点について同定せよ
  - 知見に対する別の説明の仕方について考察せよ
  - 研究の強みと限界について確認せよ（データの質、データソース、データの種類や分析プロセスがどのように方法論的一貫性をサポートしたのか、あるいは弱めたのかなど）
  - 知見の移動可能性の範囲の限界について記述せよ（別の文脈で知見を活用する際に読者は何を心に留めておくべきかなど）
  - 今後の研究、政策、実践に対する示唆について考察せよ
- 議論
  - 学問的な理解を促進する上での主要な貢献とその重要性について記述せよ
  - 研究結果の貢献の種類（先行研究や関連研究における理論に対する挑戦、それらの精緻化や支持など）、知見が最もよく活用される方法について記述せよ

14

## 4. これからのディスコース研究

- 循環的な研究の営みを、線形に記述することの難しさ
  - 質的研究に共通する悩み？
  - 書き手の側から、読み手の側から
  - 読み手とは誰なのか？他の研究者？ Cf.多彩な表現方法
- TruthやRealityの問題
  - truthsやversions, realityの生成の問題として捉える cf.量的研究におけるa truthへの信頼
  - ポストモダンにおける相対化
  - ポストモダンが括弧の中に入れてきた問題
  - 括弧の中に入れることは二元論の克服と言えるのか？

15

## 文献

American Psychological Association (2019). Publication manual of the American Psychological Association, 7<sup>th</sup> ed. APA. (APA 前田樹海・江藤裕之 (訳) (2023) APA論文作成マニュアル 第3版 医学書院)

Burr, V. (2015). Social constructionism, 3<sup>rd</sup> ed. London: Routledge. (バー, V. 田中一彦・大橋靖史 (訳) (2018) ソーシャル・コンストラクショニズム -ディスコース・主体性・身体性- 川島書店)

大橋靖史・森直久・高木光太郎・松島恵介 (2002). 心理学者、裁判と出会う -供述心理学のフィールド- 北大路書房

Rapley, T. (2017). Doing conversation, discourse and document analysis, 2<sup>nd</sup> ed. London: Sage. (ラプリー, T. 大橋靖史・中坪太一郎・綾城初穂 (訳) (2018) 会話分析・ディスコース分析・ドキュメント分析 新曜社)

鈴木聡志 (2007). 会話分析・ディスコース分析 -ことばの織りなす世界を読み解く- 新曜社

16